

熊本大文学部の積山薫教授（左から2人目）と認知心理学を研究する学生たち＝熊本市の同大



人間は目や耳などで同時に得た情報や刺激をどのように整理しているのか。熊本大文学部総合人間学科の積山薫教授(52)＝認知心理学＝の研究室は実験や脳波測定によって、映像や音声などに対する認識メカニズムを研究している。

例えば、音を聞き取る実験。被験者は「バ」の音声を聞きながら、人が「ガ」と発声する無音映像も見る。目を閉じれば明らかに「バ」と聞こえるはずが、多くの被験者がすぐに判断できなかった。「聴覚は、唇の開閉といった視覚からの情報にも影響を受ける」と積山

熊本大文学部・積山薫教授の研究室

音声認識メカニズムに興味



教授は説明する。

博士課程2年の久永聡子さん(27)らは、この実験を工夫。被験者を英語圏の外国人留学生にして、同様に「バ」と「ガ」を判断させた。その際、頭に装着した電極キャップで脳波を測ったところ、日本人より視覚の影響を受けやすいことが判明。久永さんは「母国語が異なれば、音や映像から受ける影響の度合いが変わることも分かった」と興味を深める。

修士課程1年の野副幸臣さん(22)は、触覚と聴覚の関係を研究。人の左右どちらかの頬に圧縮空気を吹き付け、刺激を加えた頬とは逆方向の耳元で「プシュ」という空気音を鳴らす実験を重ねたところ、被験者の5～8割が刺激された頬を間違えた。「触覚と聴覚の関連性の研究は全国的に進んでいない。やりがいがある」と話した。

(宮崎達也)